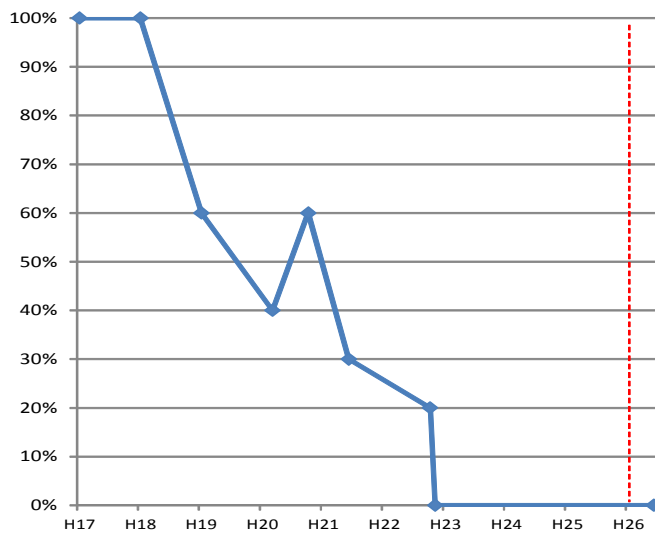


樹種名	シオジ		
科 目	モクセイ科		
学 名	<i>Fraxinus platypoda</i> Oliv		
分 布	日本では栃木県西部から南の本州、四国、九州地方で、温帯の中古生層（2億5千年前の地層）地域の沢沿いに、不連続に分布する。日本海側にはほとんど見られない。		
樹木特性	日本の特産種であり、樹幹は通直で、枝下が長く、断面も正円に近く、溪流沿いに生育し生育する。		
用 途	加工が比較的容易で、家具材として最も良い材のひとつであり、洋家具、書棚、陳列棚、仏壇には適材である。化粧合板、床柱、建具、器具、楽器、運動具など用途が広い。		
植栽本数/面積 （植栽密度）	10 本／0.003ha （3,000 本／ha）		
特 徴	【樹 形】 落葉広葉樹であり、大きいものでは直径 1m 高さ 30m 程度まで成長する。 樹皮はやや褐色を帯びた灰白色で、縦の裂け目が割合規則正しい。小枝は太い。 葉は 5 ～ 9 枚（3 ～ 4 対、）の小葉（側脈 7 ～ 9 対）からなる奇数羽状複葉である。葉柄を入れると 25 ～ 35 cm前後・左右と十字形に対生する。葉柄の基部は著しく膨らみ、中に小さな冬芽がある。 雌雄異株で、4 ～ 5 月、葉を出す前に前年枝の葉痕のわきから長さ 10 ～ 15 cmの円錐花序を出し、多数の花弁のない小花をつける。 10 月ごろ、長さ 3 ～ 5 cm、幅 1 ～ 1.5 cmの狭長楕円形の翼を持つ果実が熟す。 辺材は淡い黄白色で、心材は淡灰褐色～淡黄褐色を呈している。辺心材の境目は明瞭。年輪は明瞭である。木目は直通であるが木肌はやや粗い。材はやチダモに似ているが、やや軽軟。アッシュやタモと同じ属性の木材であるが、やや木質の色が濃くなる。樺や桜のような重さがあり硬く靱性が高いが加工性は良いことから、家具(窓枠や手すりなど)や装飾材と使用される。		
試験地での様子	ポット苗により植栽したが、生育環境が異なったたことにより、5 年が経過した時点（平成 22. 6 月）に全て枯死した。		
被 害	野兎・鹿等による食害や、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害は見られない。		

シオジ 現存率



【現存率】

植栽して5年（平成22年）を経過した時点で、全ての植栽木は枯死し、現在は現存していない。

平成20年度に現存率が上昇しているのは、平成19年度に3本補植したためである。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

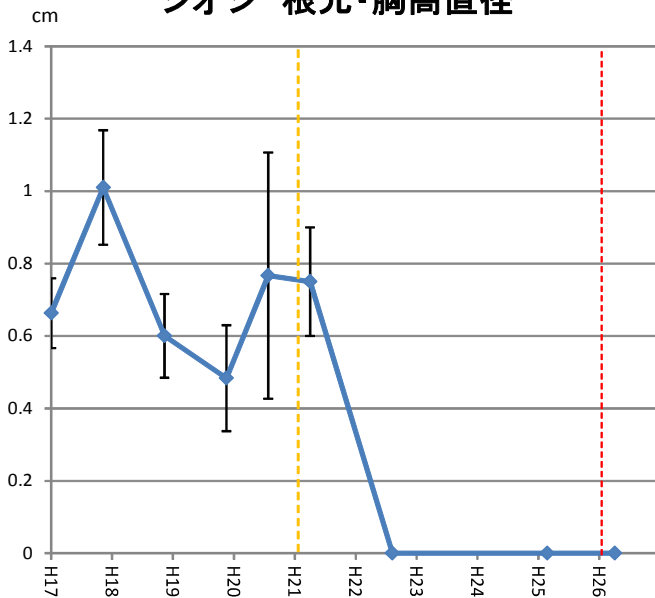
植栽後は順調に成長していたが、5年後に全て枯死したため継続データは捉えられなかった。

平成20年度に根元・胸高直径が上昇しているのは、平成19年度に3本補植したことにより一時的に上昇したが、枯死したため調査対象木が著しく低下した。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

シオジ 根元・胸高直径



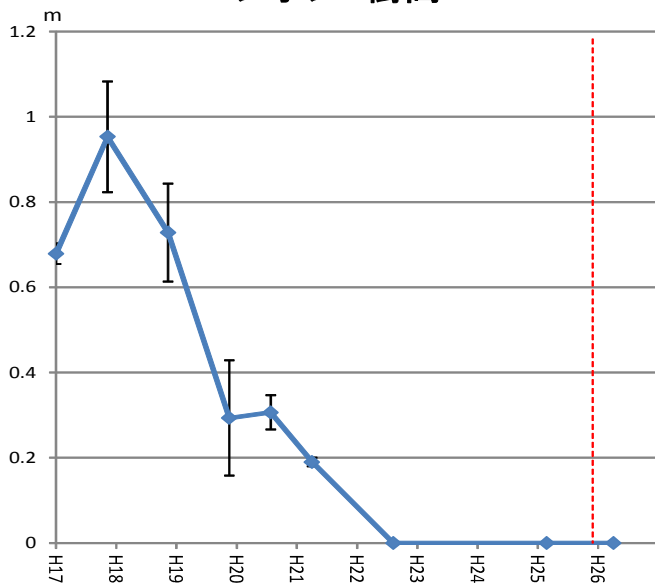
【樹 高】

植栽後は順調に成長した樹木から枯死していったために樹高が年々減少し続け、5年後に全て枯死したため継続データは捉えられなかった。

平成20年度に樹高が上昇しているのは、平成19年度に3本補植したことにより一時的に上昇したが、枯死したため調査対象木が著しく低下した。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

シオジ 樹高



《プチ情報》

柾目（まさめ）がとおり割りやすいので柾寿や柾樹の名前が付けられ、その音読みがシオジに転じた。和名は「塩地」という。ケヤキ、クリ、クワの代用材として利用される。

シオジとヤチダモは非常に似ており、見分けは難しいが、シオジは葉柄の基が肥大し、茎を取り巻いているが、ヤチダモは茎の周りの1/4以上に達しないので区分ができる。

またヤチダモは本州中部～北海道など寒冷地に多く分布するのも違いである。